

# 令和6年度 子ども文教常任委員会 行政視察報告書

## 1 調査期間

令和6年10月21日（月）～10月23日（水）

## 2 視察都市及び視察事項

期 日	視察都市	視察事項
10月21日（月）	東京都荒川区	ゆいの森あらかわの取り組みについて
10月22日（火）	福岡県嘉麻市	学校施設と社会教育施設の複合化について
10月23日（水）	大分県別府市	「たびスタ」休暇について

## 3 視察者

栗原 貴司（委員長） 平川 和美（副委員長）  
加藤 彩野 原田 建  
町田 輝佳 山口 政哉  
柳田 あゆ 森井 健太郎  
竹村 雅夫

## 4 視察事項の概要

### 【1日目】

視察自治体 東京都荒川区

①荒川区の人口及び面積 人口 220,687人 面積 10.16 km<sup>2</sup>

②令和6年度一般会計予算 1,219億円

③視察項目 「ゆいの森あらかわの取り組みについて」

④ゆいの森あらかわ 施設概要

（名称の由来） 人と人、本と本、地域と人が結びつき、楽しみ、学び、安らげる、豊かな森のような施設となるよう名付けた

（所在地） 荒川区荒川2-50-1

（敷地面積） 約4,100m<sup>2</sup> 延床面積 約10,900m<sup>2</sup>

（階数） 地上5階、地下1階

（座席数） 933席（予約が必要な研究席、学習席含む）

（開館時間） 9時から20時30分まで

（休館日） 毎月第3木曜日・特別整理期間・年末年始等

（設備） エレベータ、エスカレータ、バリアフリースイレ、対面音訳室、ベビーステーション、AED、発電機、備蓄倉庫  
ヒアリンググループ、冷水機、全館フリーWi-Fi

（運営方法） 直営（夜間の総合受付の一部に派遣職員を導入）

### (1) 施設設立の経緯

①老朽化した荒川図書館の建替えと中央図書館整備の課題、②吉村昭文学館の図書館との併設に向けた課題（吉村昭氏は荒川区出身の小説家、調べる作家として知られる、記録文学の第一人者）、③屋内でも安心して遊べる子育て支援の拠点づくりの課題があり、以上の課題を解決することが可能な用地を取得することができたため、「赤ちゃんから高齢者まで、全ての世代に新たな発見と読書の楽しみを提供する中央図書館」、「作家・吉村昭を感じ、文学に親しみ、文化を育む空間の吉村昭記念文学館」「子どもたちの夢や生きる力、子育ての喜びや楽しさを地域ぐるみで育む荒川の未来づくりの拠点のゆいの森子どもひろば」の3つの機能を有する複合（融合）施設として、ゆいの森あらかわの整備に至った。

### (2) 区直営の理由

ゆいの森あらかわの3つの機能を円滑に融合し、また、区役所の関係各課や学校図書館との連携も円滑に行うことができること。（小中学校34校の司書と連携）さらに、ゆいの森あらかわ開館までの図書館運営の中で、選書やレファレンスサービスなどにおいて能力が高い司書を育成することができたこと。これらの司書は、貸出数等の数値では把握しきれないリアルな利用傾向や要望をくみ取ることができ、選書をはじめ、イベントや事業の実施等につなげることができることから、直営とした。また、学校司書連絡会に公共図書館司書も出席して情報共有を行っているが、これも双方が直営であるがゆえに円滑に行えている連携である。

### (3) 複数機能の融合による具体的な取り組み・実績

読書活動につなげる取り組みとして、ゆいの森あらかわでは文学館や子どもひろば、区役所他課が主催するイベントや講座・展示等において、イベントや講座内容・展示内容に関連する図書などを用意。

さらに、文学館の企画展にあわせて子どもひろばにおいて、関連するワークショップを実施するなど、図書館、文学館、子どもひろばの3つの機能が連携した取り組みも実施している。



### (4) 区内の保育園や小中学校、高校、大学との連携について

ゆいの森あらかわをはじめとする荒川区立図書館では、保育園や学校、学童クラブ、福祉施設などを対象に団体貸し出しを行っているほか、小学校には「図書館大

好き」、中学校には「ぺら」という名称の公共図書館司書が本を紹介している発行物を、学校図書館に掲示している。

また、毎年、小学校1年生の全クラスに対し、担当館の児童担当が学校に訪問し、図書館の利用案内やブックトーク、読み聞かせの実施、中学校についても学校司書を訪問して事業紹介を行うといった協力を実施している。

なお、教育センターが毎年行っている「調べる学習チャレンジ講座」では、図書館を会場にすることにより、学校司書は会場内で児童を支援し、公共図書館司書もフロアで資料探しを手伝うなど、互いに連携している。

ただし、高校や大学とはなかなか連携が難しいが、インターンの受け入れなどでつながりを確保している。

#### (5) 「荒川区豊かな心を育む読書のまちづくり条例」制定の背景

平成30年「読書を愛するまち・あらかわ」宣言を行い「本が」身近にあるまちづくり」を積極的に推進。その精神をさらに発展・充実させ、宣言の理念をより一層深めるとともに、地域が一体となって、あらゆる世代の区民等が生涯にわたり豊かな心を育む読書のまちづくりを推進することを目的に令和5年4月1日に条例を施行。

##### ○具体的な主な施策

- ・ブックスタート、セカンドブック事業
- ・子ども司書及びティーンズスタッフの活動支援
- ・オーダーメイドブックサービス
- ・読書推進月間事業として、著名人による講演会を実施
- ・各種ボランティア養成講座の開催及び活動支援
- ・あらかわ街なか図書館事業→公共施設、病院、商店などに本棚を置いていただき貸し出しもしている。現在73館



#### (6) 今後の課題と展望

○「あらかわ街なか図書館」を増やすには今後どうしたらいいか課題。

もともとお店が置いている本がそのまま「あらかわ街なか図書館」になっている。

○ゆいの森あらかわをボランティア活動の拠点とするため、2階コミュニティラウンジに優先席や登録団体用のロッカーを設置しボランティア活動を支援しているが、コロナ禍において影響を受けたボランティア活動やグループ活動等をどのように活性化していくかが課題である。今後、ボランティア養成、ボランティア団体の育成などに取り組む。

(7) 所見

荒川区は条例の「読書を愛するまち・あらかわ」とあるように、いつでもどこでも本に親しむ環境づくりを推進しています。

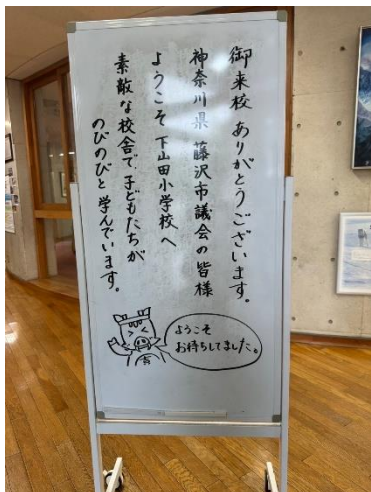
「ゆいの森あらかわ」を中心に各図書館と連携し、さらには「街なか図書館」として区民の協力があり、いつでも誰でも、どこでも本を借りられ、親しめる仕組みづくりはとても参考になりました。



## 【2日目】

視察自治体 福岡県嘉麻市（福岡、久留米、北九州の中間に位置）

- ① 嘉麻市の人口及び面積 人口 35,473 人 面積 135.11 km<sup>2</sup>
- ② 令和6年度一般会計予算 280 億円
- ③ 視察項目 「学校施設と社会教育施設の複合化について」
- ④ 施設概要 下山田小学校と社会教育施設のホールを複合化した全国的にも珍しい学校として、1994年4月に建て替えられた。



### <教育課題>

学力、不登校、ふるさと教育などの取り組みをしてきた。それらを克服して自立した社会人となる基礎をつちかうことが目的。

義務教育学校3校を開校（分離型一貫校）

ふるさと教育、地域を愛する教育、  
地域と一体に進めなければ

コミュニティスクールは下山田小学校が最初

### （1）複合化した経緯

下山田小学校は、当時児童数142人、全8学級の小さな学校であった。旧山田に置かれている過疎化、少子高齢化の現状を踏まえ、さらには情報化社会に対応できる学校施設の建設に向けて検討を重ね、1999年4月全国的にも珍しい、ホールを複合した学校として建てられた。

下山田小学校の建設は、単なる学校施設の建て替えではなく、一日の多くの時間を過ごす児童や施設を利用する地域住民のために、豊かで快適な空間を持つ施設であるとともに、学校施設や教育力を積極的に地域に開放し、学校と地域との連携、融合を図ることを目的とした。

### （2）複合化のメリットとデメリット

下山田小学校は、全国で2番目にホールを複合化した学校。ホールは250人程度が収容可能で調理室、和室、会議室といった社会教育関連施設が併設され、地域コミュニティの核を形成。ホールは学校行事の他、地域のイベントに解放している。調理室、和室も児童が使用する他、地域活動の合宿や餅つき大会などにも利用。図書室も一般開放を企画していたが、現在は開放していない。施設は、地域住民の学習の拠点であり、施設での活発的な活動による地域住民と児童との交流の場は、直接的なふれあい通じて多様な学習や体験活動を推進できている。

課題は、もともと小規模であるため、1学年1学級の設計だったので、教室が足りない状況が生じたこと。また、ホールやアリーナで大きなイベントがある際は、駐車場が足りず、運動場を使用しなければならないこと。

### (3) 設計計画での工夫

#### <設計計画に至る経緯>

「下山田小学校建築基本構想策定委員会」を組織。数十回に及ぶ協議を重ね「建築基本構想」が完成。策定委員会から教育委員会へ建議、教育委員会から市長へ具申を行う。その後、市議会において「下山田小学校建設特別委員会」を設置し、延べ18回の審議を得て議会で議決。

その間、地域への説明として市内全世帯約5,200世帯へ学校づくり新聞を発行し配布。設計に関しては公開コンペを開催し、下山田小学校4建築設計協議を開催、審議を経て最優秀作品を決定。現在の下山田小学校の設計に至った。

複合化に向けた取り組みとして、地域公民館関係者、地元関係者と協議を重ね、意見・要望等反映された設計となった。

### (4) 複合化することによる児童生徒の教育環境への影響

地域住民との交流がプラスになっている。また、地域住民が子どもたちに触れ、学校に対する理解が深まっている。

### (5) 安全性の確保や互いの活動への支障の緩和

学校の敷地内に一般利用者が入ることができ、防犯面で課題がある。

受付（共有施設）には公民館職員が常駐しており、学校の教育活動と、生涯学習で利用する時間場所の使用調整を行っている。教育活動を優先としている。

### (6) 施設利用者と児童生徒の交流

地域住民との交流。公民館が児童の学習支援もしている（赤ペン先生の指導など）

### (7) 複合化に関する児童の感想は？

当時の資料が保存されておらず詳細は不明。

### (8) 施設の管理区分、会計区分

学校施設側については教育総務課、社会教育施設については生涯学習部が管理しており、光熱水費は、学校施設側が一括管理している。



### (9) 今後について

嘉麻市地域学校共同活動で、「学校を核とした地域づくり」を推進。

少子化、高齢化の問題は一体的に取り組んでいかなければまちの将来はない。

課題解決のためには、地域の将来を担う人材の育成。地域住民とのつながり、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る。

### (10) 不登校の生徒の状況

福岡県も急増。学校と関係機関との連携。独自の少人数学級。先生の丁寧なサポート力が可能になっている。また、発達障害の子が増えている。不登校の原因の一つ。20人前後の学級とはいえ補助教員、介助員の配置は1校あたり6名。

#### 『大切にしてきた取り組み』

##### ○壁をなくす（見える壁、見えない壁）

- ・ 学年や年齢をこえた人間関係づくり…「縦割り学年活動」…思いやりのある子ども
- ・ 職員同士（近接学年）…両方の学年を見ながら声をかける。担任同士の壁をなくす
- ・ 「学校と地域にも心の壁をなくす」

#### 『めざす学校の姿』

○子どもたちが、地域へ世界へ広がる学校、つながる学校

○地域の人々が「集う」「学ぶ」「活動する」学校

～声をかけあう、あいさつをする、つながりを持つ学校～

### (11) 所見

下山田小学校は小学校と社会教育施設が併設された複合施設となっており、地域と学校が連携し、みんなで子どもを育てる。見守るとの考えはコミュニティスクールそのものであると思います。

児童はほぼ毎日、地域の方々と接していることにより、自然と社会生活になじむことで社会勉強になっている。地域の方は学校への理解が深まるが、一方で防犯面の課題がある。藤沢市でも児童クラブなど複合化が進められているので、メリット、デメリットなど今後の参考にしたい。

## 【3日目】

視察自治体 大分県別府市

- ① 別府市の人口及び面積 人口 112,010 人 面積 125.34 km<sup>2</sup>
- ② 令和6年度一般会計予算 614 億円
- ③ 視察項目 「たびスタ」休暇について
- ④ 「たびスタ」とは

「旅」と「学習(スタディ)」を組み合わせた、別府市発の新しい学び方・休み方。保護者の休みに合わせて、学校の休みを取得し家族で一緒に過ごすことを目的に創設。

### (1) 導入の経過

別府市の主産業は宿泊業、飲食サービス業の観光に携わる人の割合が多く、祝休日や長期休暇の時期に保護者が忙しく、子どもと過ごす時間が取りにくいとの課題があり、平日に家族旅行を推奨する仕組みづくりを検討。

保護者の休みに合わせて、学校の休みを取得し、家族で一緒に過ごす時間を提供することで家族と一緒に経験でき学校とは違う学びを期待。

地域家庭との教育活動の一環と捉え、校外活動として欠席扱いとはせず、「出席停止等」扱いとなり、年間4日まで取得可能。

対象は、別府市立小・中学校の児童生徒

※特に学校管理運営規則の改正はしていない。「学校長が認めた場合」校長会との協議 県教育委員会に了解をもらった。

### (2) 「たびスタ」休暇に期待する効果

- 家族
  - ・ 家族機械の増加
  - ・ 普段できない体験を家族で一緒に体験
  - ・ 家族で話す時間や機会の増加
  - ・ 家族の思い出やきずなづくり
- 学校教育
  - ・ 普段できない体験により子どもの知識や見識が広がる
  - ・ 地域の観光資源・歴史・文化などの発見
- 社会・地域
  - ・ 人の流れが生まれることによる地域経済の活性化
  - ・ 活力あるまちづくり
- 企業
  - ・ 有給休暇の取得向上
  - ・ 従業員のワークライフバランスの向上

### (3) 利用状況





開始から7ヶ月間で利用者は延べ1,058人と想定を上回る。利用者は約21%

#### (4) 保護者の反応と変更

保護者アンケートを実施。1500件の回答があり、利用した人のうち約97%が「良かった」と回答。好意的な受け止めが多かった。

##### ○アンケートの意見

「自分が住んでいるまちを知ることに意義がある」

「県外に連れて行く経済的な余裕がない」などの意見があった。

アンケートを受けて3つの変更を行った。

① 当初「たびスタ」休暇の取得は3日間だったが4日間に変更。

② 市外に限定していた旅行先に市内も追加した。

③ 休日取得についても5日前までに申請が必要だったが、より利用しやすくするため、前日までの申請に変更にした。

#### (5) 導入して見えてきた課題

○市民の皆様方や様々なところから問い合わせが多い。

○地元のマスコミ（新聞社、テレビ局）などが取り扱ってくれた。その他、教育系の新聞や朝日新聞、読売新聞オンライン版で広告で取り上げられた。この広告は、観光協会が新聞広告を出してくれた。地元、市民からも一定指示があると受け止めている。

#### (6) 今後の方向性

○学校現場に直接アンケートなどで声を聞いていない。

受け止めや困りごとの把握も必要、今年度学校現場のニーズや困りをもとにブラッシュアップできればと考えている。

○授業の遅れも心配。自分で学習できるようタブレット使った学習アプリで対応できないか調査研究中。

○学校にできるだけ負担をかけないよう報告は申請の数だけにした。

○ゴールデンウィーク（4、5月）の期間で調査した結果、旅行先は市内だけでなく九州、関西、関東も多い。

○公務員の取得は？

教職員は子どもと休みが一致しているのでニーズはあまりない。



#### (7) 所見

藤沢市も観光地であり「旅スタ」のような取り組みを参考にしたい。